巻頭言

「学び」のすすめ

世の中のすべての自然がもえぎ色に染まるような春の息吹を感じる４月、新年度を迎え、新しく社会人になられた皆さんはもちろん、転勤で異動された方や新人を向かえられた職場の皆さんも、何かしらフレッシュで爽やかな気分を感じさせるこの時期ではないでしょうか。

私自身も社会人になって概ね30年の歳月が経ちましたが、やはりこの季節は職場の環境も変化し、公私ともに新しい取り組みやスキルアップに向けて、士気の高まる新鮮さを感じています。

その職場では公共事業に関するさまざまな情報が否応なく私の耳元に飛び込んできて、ことばどおり、机のうえ、頭のなかから溢れ出しています。一言に資格取得・スキルアップといっても、なかなか強い意志がないと継続が難しいのはどの職場も同様なのかもしれません。

さて、私は技術者の継続教育を語るとき、幕末の儒学者佐藤一斎の生涯学習論である「三学戒」の教えをよく引き合いに出します。

「少にして学べば、則ち壮にして為すことあり
壮にして学べば、則ち老いて衰えず　老いて学べば、則ち死して朽ちず」

幼少時代にしっかりと勉強しておけば、成人になって社会に役立つ人となる。30歳を過ぎて学べば、中高年と言われる年代に人生が充実し周囲を明るくする。老年になってさらに学べば、今までの人生経験に輝きが増し、後生の人々にも大きな目標となる人物となるであろう。

一斎は自らも生涯教育、生涯学習の体現者として、「言志晩録」でこの三学戒の教えを説いていますが、学び続けることの大切さを見事に言い表した言葉だと私は感銘を受け座右の銘としています。

この機関誌を手にされている多くの皆さんは、国あるいは地方自治体等に所属し、社会基盤整備に携わる技術者として、第一線の現場で、さまざまな諸問題に直面し、繁忙な毎日を送られている一方で、技術力を身につけるために研究活動や学習にも勢力を注がれていることと存じます。

私たちの携わる公共事業は、国民の社会生活や文化、経済を支える社会基盤として、長く、安全に使っていただかなければならないものであり、私たち技術者は、日進月歩する新たな技術の導入はもとより、さまざまな社会状況や国民のニーズを敏感に感じ取り、良質で無駄のない社会資本を国民に提供しなければなりません。

また、新たな入札制度で用いられる総合評価やプロポーザル方式では、提案された技術提案を適正に評価するため、請負企業に求める技術者の技術力と同様に、私たち発注者側の技術力も今まで以上に求められています。

国土交通省 大臣官房 技術審議官　佐藤（さとう） 直良（なおよし）

これからは発注機関においても、かなりのウエートで個人的な技術力・資質が求められていると言っても過言ではありません。これは、公務員制度の改革においても、これからの公務員の任用にあっては、能力・実績主義が叫ばれていることからも言えることだと考えています。

以前、私は、自らの経歴・功績をつぶさに記録に留められていた人物に会ったことがあります。氏は自らが具体にどのような役割で業務にかかわり、功績を果たしたのか、また、経歴としての論文、雑誌への投稿、講演や表彰などを逐一記録に残しており、もちろん国家資格なども保持していたと記憶しています。

国の機関や都道府県の要職に就いたということも本人の評価・功績につながる重要な要件ではありますが、これからの時代は、どのような仕事に携わり、そこでどのような功績を積み重ねてきたかということが、今まで以上にその技術者の評価につながるという社会の風潮が高まりつつあると考えています。またそのような学習の成果・業績が本人の誇りとしても醸成されるような時代に変わってきているということを感じています。

資格制度に目を向けると、土木学会では、平成13年度から新たな認定技術者資格制度を設けています。ここには、従来の「組織」の時代から、「個人」の時代へ変化したことで、倫理観と専門的能力を有する土木技術者を評価し、社会に対し責任をもって明示することが必要であるとされています。

技術士の制度においても継続教育や技術者の倫理を背景として平成13年に技術士法が改正されました。

姉歯事件のような偽装問題や近年の環境対策に係る社会的な責任など、技術者には高い倫理観が求められています。また、技術力を保持し、新しい技術に敏感に対応するためにはそれぞれのポストに応じた学習を続けなければならないという責務をも負っているのではないでしょうか。

本号は「技術資格取得のすすめ」の特集と聞いて、最後に資格制度についても触れましたが、技術資格の取得は技術者自身の技術力の向上や学習に対するインセンティブを付与するものとして非常に重要と考えています。

しかし、資格取得自体を目的とすることにはあまり意味がなく、取得した資格に相応しい自覚と誇りを持ち、その技術力を業務のなかで発揮してこそ活かされるものだと思っています。

さて、「三学戒」の教えを思い起こして、自らの「生涯学習」について、少し思いを巡らしてみるのもよい季節のようです。